

【青鵲課題研究プレ】基礎理科実験「レポート評価」基準表

| 項目 | 評価基準 | | |
|-------------------------------|---|---|--|
| | 十分満足できる (A) | おおむね満足できる (B) | 努力を要する (C) |
| ① レポートの提出 【主 探究力】 | 提出期限やレポートの書式 (ひな形を使って A4 2 枚) を守ってレポートを提出している。 | レポートを提出しているが、提出期限や書式 (ひな形を使って A4 2 枚) を守れていない。 | レポートを提出していない。 ※ 以下のすべての項目が「C」評価 |
| ② 「理論・定義」【知】 | 実験・考察に必要な予備知識を丁寧で詳しく書いている。 | 実験・考察に必要な予備知識を正しく書いているが、丁寧に詳しくはない。 | 実験・考察に必要な予備知識を正しく書けていない。 |
| ③ 「実験器具, 試薬等」 / 「実験操作」【知】【思表】 | 文章と写真・イラストを効果的に用いて、読む人が実験を再現できるように書いている。 | 読む人が実験を再現できるように書いているが、文章だけ、または写真・イラストだけで伝わりにくい。 | 読む人が実験を再現できるように書けていない。 |
| ④ 「実験結果」【知】【思表】 | 文章と写真・グラフを効果的に用いて、「どんな結果が得られたか」が分かるように書いている。 | 「どんな結果が得られたか」が分かるように書いているが、文章だけ、または写真・グラフだけで伝わりにくい。 | 「どんな結果が得られたか」が分かるように書けていない。 |
| ⑤ 「考察」【思表】 | 実験で得られた写真・グラフ等のデータに基づいて、「実験結果」から明らかにしたことや「実験結果」がなぜ起こったのかが分かる考察を書いている。 | 「実験結果」から明らかにしたことや「実験結果」がなぜ起こったのかが分かる考察を書いているが、実験で得られた写真・グラフ等のデータに基づいて示されていない。 | 「実験結果」から明らかにしたことや「実験結果」がなぜ起こったのかが分かる考察を書けていない。(「実験結果」のオウム返し) |
| ⑥ 「まとめ」【思表】 | 「明らかにしたこと」が分かりやすく、「目的」と一致したまとめを書いている | 「目的」と一致したまとめを書いているが、「明らかにしたこと」が分かりにくい。 | 「目的」と一致したまとめを書けていない。 |
| ⑦ 「展望」 【主 探究力】 | 「新たな仮説」や「条件を変えたときの予想」または「仮説・予想を証明するための実験方法」を踏まえた上で、「これから何を明らかにしたいのか」が分かる展望を書いている。 | 「これから何を明らかにしたいのか」が分かる展望を書いているが、「新たな仮説」や「条件を変えたときの予想」または「仮説・予想を証明するための実験方法」を踏まえていない。 | 「これから何を明らかにしたいのか」が分かる展望を書けていない。 |

【知】… 知識・技能 / 【思表】… 思考・判断・表現 / 【主】… 主体的に学習に取り組む態度

【青鵲課題研究プレ】基礎理科実験「授業評価」基準表

≪説明文≫ 1周目の基礎理科実験を振り返って、自分に最もよく当てはまる選択肢を理由とあわせて回答してください。

| 項目 | 評価基準 | | |
|-------------------------|---|--|---|
| | 十分満足できる (A) | おおむね満足できる (B) | 努力を要する (C) |
| ① 実験の目的や操作等【知】 | 実験の目的や操作等を十分に理解することができた。 | 実験の目的や操作等をおおむね理解することができた。 | 実験の目的や操作等をあまり理解することができなかった。 |
| ② 実験への主体的な関わり【主】 | 実験に主体的に関わることが十分にできていた。 | 実験に主体的に関わることがおおむねできていた。 | 実験に主体的に関わることがあまりできていなかった。 |
| ③ 実験の見通しや振り返り【主】 | 見通しや振り返りを行いながら実験を進めることが十分にできていた。 | 見通しや振り返りを行いながら実験を進めることがおおむねできていた。 | 見通しや振り返りを行いながら実験を進めることができていなかった。 |
| ④ 実験を通しての協働活動【主 協働性】 | 実験の際に研究班のメンバーと協力したり相互評価の際に他者に建設的な意見を述べたりすることで、実験を協働的に行うことが十分にできていた。 | 実験の際に研究班のメンバーと協力したり相互評価の際に他者に建設的な意見を述べたりすることで、実験を協働的に行うことがおおむねできていた。 | 実験の際に研究班のメンバーと協力したり相互評価の際に他者に建設的な意見を述べたりすることで、実験を協働的に行うことができていなかった。 |

【知】… 知識・技能 / 【思表】… 思考・判断・表現 / 【主】… 主体的に学習に取り組む態度

青鵲課題研究「課題研究報告書」レポート評価基準表

| 項目 | 評価基準 | | |
|---------------------------------|---|---|--|
| | 十分満足できる (A) | おおむね満足できる (B) | 努力を要する (C) |
| ① レポートの提出 【知】【主】(探究力) | 提出期限やレポートの書式(ひな形を使ってA42枚)を守ってレポートを提出している。 | レポートを提出しているが、提出期限や書式(ひな形を使ってA42枚)を守れていない。 | レポートを提出していない。 ※ 以下のすべての項目が「C」評価 |
| ② 「理論・定義」 【知】 | 実験・考察に必要な予備知識を丁寧に詳しく書いている。 | 実験・考察に必要な予備知識を正しく書いているが、丁寧に詳しくはない。 | 実験・考察に必要な予備知識を正しく書けていない。 |
| ③ 「実験器具, 試薬等」/ 「実験操作」 【知】 | 文章と写真・イラストを効果的に用いて、読む人が実験を再現できるように書いている。 | 読む人が実験を再現できるように書いているが、文章だけ、または写真・イラストだけで伝わりにくい。 | 読む人が実験を再現できるように書けていない。 |
| ④ 「実験結果」【思】 | 文章と写真・グラフを効果的に用いて、「どんな結果が得られたか」が分かるように書いている。 | 「どんな結果が得られたか」が分かるように書いているが、文章だけ、または写真・グラフだけで伝わりにくい。 | 「どんな結果が得られたか」が分かるように書けていない。 |
| ⑤ 「考察」【思】 | 実験で得られた写真・グラフ等のデータに基づいて、「実験結果」から明らかにしたことや「実験結果」がなぜ起こったのかが分かる考察を書いている。 | 「実験結果」から明らかにしたことや「実験結果」がなぜ起こったのかが分かる考察を書いているが、実験で得られた写真・グラフ等のデータに基づいて示されていない。 | 「実験結果」から明らかにしたことや「実験結果」がなぜ起こったのかが分かる考察を書けていない。(「実験結果」のオウム返し) |
| ⑥ 「まとめ」 【思】 | 「明らかにしたこと」が分かりやすく、「目的」と一致したまとめを書いている | 「目的」と一致したまとめを書いているが、「明らかにしたこと」が分かりにくい。 | 「目的」と一致したまとめを書けていない。 |
| ⑦ 「展望」 【知】【主】(主体性) | 「新たな仮説」や「条件を変えたときの予想」または「仮説・予想を証明するための実験方法」を踏まえた上で、「これから何を明らかにしたいのか」が分かる展望を書いている。 | 「これから何を明らかにしたいのか」が分かる展望を書いているが、「新たな仮説」や「条件を変えたときの予想」または「仮説・予想を証明するための実験方法」を踏まえていない。 | 「これから何を明らかにしたいのか」が分かる展望を書けていない。 |

【知】… 知識・技能 / 【思】… 思考・判断・表現 / 【主】… 主体的に学習に取り組む態度

青鵲課題研究プレゼン評価基準表

| 項目 | 評価基準 | | |
|------------------------------|---|---|--|
| | 十分満足できる (A) | おおむね満足できる (B) | 努力を要する (C) |
| ① 発表用スライドの作成能力 【知】【主】 | 発表時間に適切な枚数のスライドを用意できており、さらに文字の大きさや情報量が適切なスライドを作成することができる。 | 発表時間に適切な枚数のスライドを用意できているが、文字の大きさや情報量が適切なスライドを作成することができていない。(文字が小さすぎて見にくいスライド、多くの情報を詰め込みすぎたスライド、等) | 発表時間に適切な枚数のスライドを用意できていない。(発表の8分に対してスライドが多すぎる、または少なすぎる) |
| ② プレゼンテーション能力 【思】(表現) | スライドの内容の説明について、言葉に詰まることなく大きな声ではっきりと発表できており、さらに視線を上げて聞き手を意識しながらしゃべることができる。 | スライドの内容の説明について、言葉に詰まらず大きな声ではっきりと発表しているが、発表原稿ばかりに気を取られていて聞き手を意識できていない。 | スライドの内容の説明について、言葉に詰まったり小さな声でぼそぼそと発表したりしている。 |
| ③ 実験結果をまとめる能力 【思】 | 実験目的、実験手順、実験結果が適切にまとめられており、写真・動画やグラフ・表を正しく用いて聞き手に伝わりやすい工夫をしている。 | 実験目的、実験手順、実験結果が適切にまとめられているが、写真・動画やグラフ・表を正しく用いて聞き手に伝わりやすい工夫をしていない。(文字だけで示された実験手順、軸ラベル・単位などが正しく表示されていないグラフや表、等) | 実験目的、実験手順、実験結果が適切にまとめられていない。(実験目的や実験手順がまとめられていない、実験結果が何のデータであるのかを示していない、等) |
| ④ 研究全体をまとめる能力 【思】【主】(主体性) | 研究の目的から研究のまとめに至るまでの筋道が通っており、実験結果からの考察や今後の展望がデータや事実に基づいて論理的にまとめられている。 | 研究の目的から研究のまとめに至るまでの筋道が通っているが、実験結果からの考察や今後の展望が飛躍していて論理的にまとめられていない。 | 研究の目的から研究のまとめに至るまでの筋道が通っていない。 |

【知】… 知識・技能 / 【思】… 思考・判断・表現 / 【主】… 主体的に学習に取り組む態度

青鵲課題研究「研究に取り組む姿勢」授業態度評価基準表

《説明文》年間の研究活動を振り返って、自分に最もよく当てはまるものをそれぞれ一つずつ選択してください。

| 項目 | 評価基準 | | |
|-------------------------------------|---|--|---|
| | 十分満足できる（A） | おおむね満足できる（B） | 努力を要する（C） |
| ① 研究の目的や操作等 【知】（探究力） | 研究の目的を理解し、研究に必要な操作等を身に付けることが十分にできた。 | 研究の目的を理解し、研究に必要な操作等を身に付けることがおおむねできた。 | 研究の目的を理解し、研究に必要な操作等を身に付けることがあまりできなかった。 |
| ② 研究への主体的な関わり 【主】（主体性） | 研究を進めるため、他人の指示なく自ら率先して発言・行動することが十分にできた。 | 研究を進めるため、他人の指示なく自ら率先して発言・行動することがおおむねできた。 | 研究を進めるため、他人の指示なく自ら率先して発言・行動することがあまりできなかった。 |
| ③ 研究の見通しや振り返り 【主】（主体性） | 自己目標実現シートを活用するなどして、見通しや振り返りを行いながら研究を進めることが十分にできた。 | 自己目標実現シートを活用するなどして、見通しや振り返りを行いながら研究を進めることがおおむねできた。 | 自己目標実現シートを活用するなどして、見通しや振り返りを行いながら研究を進めることがあまりできなかった。 |
| ④ 研究を通しての協働活動 【知】【主】（協働性） | 研究の際に研究班のメンバーと協力したり必要に応じて作業を分担したりするなど、研究を協働的に行うことが十分にできていた。 | 研究の際に研究班のメンバーと協力したり必要に応じて作業を分担したりするなど、研究を協働的に行うことがおおむねできていた。 | 研究の際に研究班のメンバーと協力したり必要に応じて作業を分担したりするなど、研究を協働的に行うことができていなかった。 |

【知】… 知識・技能 / **【思】**… 思考・判断・表現 / **【主】**… 主体的に学習に取り組む態度

青鵲課題研究 A P 『英語による課題研究発表会』に向けた学習活動』評価基準表

《説明文》

「英語による課題研究発表会」に向けた学習活動を振り返って、自分に最もよく当てはまるものをそれぞれ一つずつ選択してください。

| 項目 | 評価基準 | | |
|-----------------------------------|---|--|---|
| | 十分満足できる (A) | おおむね満足できる (B) | 努力を要する (C) |
| ① 留学生とのオールイングリッシュによる交流【主】(主体性)【知】 | 必要な英語表現や英単語を活用して、留学生とのオールイングリッシュでの交流が十分にできていた。 | 必要な英語表現や英単語を活用して、留学生とのオールイングリッシュでの交流がおおむねできていた。 | 必要な英語表現や英単語を活用して、留学生とのオールイングリッシュでの交流ができていなかった。 |
| ② 適切な科学英語を用いた表現能力【思】(表現力) | 適切な科学英語を用いて、聞き手／読み手に伝わりやすいようにプレゼンテーション／レポートを表現することが十分にできていた。 | 適切な科学英語を用いて、聞き手／読み手に伝わりやすいようにプレゼンテーション／レポートを表現することがおおむねできていた。 | 適切な科学英語を用いて、聞き手／読み手に伝わりやすいようにプレゼンテーション／レポートを表現することができていなかった。 |
| ③ 翻訳活動を通しての協働活動【思】【主】(協働性) | 翻訳活動の際に、研究班のメンバーと協力して翻訳したり留学生との交流をサポートし合ったりして、協働活動を行うことが十分にできていた。 | 翻訳活動の際に、研究班のメンバーと協力して翻訳したり留学生との交流をサポートし合ったりして、協働活動を行うことがおおむねできていた。 | 翻訳活動の際に、研究班のメンバーと協力して翻訳したり留学生との交流をサポートし合ったりして、協働活動を行うことができていなかった。 |

【知】… 知識・技能 / 【思】… 思考・判断・表現 / 【主】… 主体的に学習に取り組む態度

レポートの完成・提出 (探究力)

Saga Chienkan High School: Super Science High School (SSH) Project

“English Research Presentation Trial” Scoring Sheet

Following scoring subject are according to the scoring method for Kyushu High School Student Science Research and Presentation Competition

(1) Creativity (思考力)

Originality of the presented research is recognized from the focus point, ideas for experimental or observational methods, process of data collection, final conclusion and discussion.

(2) Logic (思考力)

The experiments, and observations in their study are accurate, the data collection and process strategy are appropriate. The conclusion was lead from valid data through logic strategy.

(3) English Expression (表現力)

Oral presenters are clear to explain their presentation without using handout, and try to make it clear to audience from the biggening to end of their slot.

(4) Question and answer (知識・技能)

The presenters enable to get the essence of question from audience, and answer with clear response for those question in English.

- evaluation score; one to five (Good 5 · 4 · 3 · 2 · 1 Bad) (The average is 3)
- Only the first prize will be explained to audience. Individual scores for all of the presentation are not opened.

Name ()

| No. | Creativity | Logic | Expression | Q&A | total |
|-----|------------|-------|------------|-----|-------|
| 1 | | | | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |

< Review paper >

Name ()

Presentation No.1 Title()

Good points

| |
|--|
| |
|--|

Improvement points

| |
|--|
| |
|--|